

(別紙様式10)

## 2020年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

【申請区分】:  萌芽的異分野連携共同研究  共同推進研究  
 産学官連携フュージビリティ・スタディ  
 共同研究集会  産学官連携課題設定集会

【研究課題名】: 北極クルーズ研究会

【研究期間】: 2020 年度～2021 年度

### 【共同研究員】

共同研究員	氏名	所属・職名	専門分野	区分
研究代表者 (拠点内外) (注 2)	伊東弘人	セントラルコンサルタント株式会社・上級主任技師	クルーズ産業・経済、港湾計画	
研究分担者 (拠点外) (注 2)	山口直彦	商船三井客船株式会社・代表取締役社長	クルーズ船社	
	糸川雄介	シルバーシー・クルーズ・日本韓国支社長	クルーズ船社	
	Stefan Kirchner	University of Lapland, Associate professor	国際法・北極域 関係法	
研究分担者 (拠点内) (注 2)	田中雅人	北海道大学北極域研究センター・特任教授	北極圏・観光	
	Juha Saunavaara	北海道大学北極域研究センター・助教	北極圏の社会・ 経済	
	大塚夏彦	北海道大学北極域研究センター・教授	北極海航路、海 運・港湾	
	大西富士夫	北海道大学北極域研究センター・准教授	北極域のガバナ ンス・政策	
	矢吹祐伯	国立極地研究所・特任准教授	北極域クルーズ 船モニタリング	
研究協力者 (注 2)(注 3)				

(注 2) 拠点内外については、募集要項別添の北極域研究共同推進拠点を形成する3研究施設の研究者リストをご覧ください。

(注 3) 計画申請書に含まれていなかった方でも結果的に本共同研究に参画された方(招へい者等)が居られれば、研究協力者として記述して下さい。

### 【研究の内容】

(1) 概要を 400 字以内(文字のみ)で記載してください。

今後の拡大が見込まれる北極クルーズ市場に対して、日本企業へのビジネス機会の提供を促進するために、次年度から2年間にわたってフィージビリティ・スタディを進める計画であった。2020 年度は、北極クルーズ市場における日本企業の参入可能なビジネス領域や分野、個別技術等のビジネス機会を把握するために、主要クルーズ船社のキーパーソンとの意見交換会を実施した上で、北極クルーズの拠点・ノルウェーで現地調査を実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響によって、2020 年3月から世界中のクルーズ船が停止中であり、海外のクルーズ船社幹部や AECO、港湾関係者とのミーティングのセットができないため、研究会は5月に1回実施したが、その後の現地調査等は全て中止となった。

(2) 図表や写真も交えて、研究の内容や成果等を 2000 字程度でまとめてください。

2020 年5月に開催した研究会では、コロナ禍におけるクルーズ船の運航停止に至る経緯や、船内及び港湾での感染症対策の状況、そしてクルーズ船の運航再開といった一連の動きについての状況報告に加え、コロナによるクルーズ産業への研究事例や海洋法や旗国等の取り扱い等、学術的な報告があった。またクルーズ船を運航する海外船社からは、2022 年夏期に北極海域へ配船されるエクスペディションのクルーズ船(新造船を含む)が急増する見通しである、との明るい兆しに関する情報提供もあった。

そこで、2021 年度の本研究会においては、コロナ禍の中で対応できることには限界があるが、今年度の研究会において、海外船社から発言のあった今後の北極クルーズ市場が発展する見通しに基づけば、先行的かつ継続的に研究活動を続けることは意義があると考え。よって、2021 年度の本研究会においては、引き続き北極クルーズについてのビジネス機会を探究する研究を進めていくとともに、その周辺分野の学術的な研究の促進も含んだ計画として申請したいと考える。

(3) 本共同研究に関する活動・実績等を下表に記入してください。

①研究打合せ、学会参加・集会(注 4)、調査等

(注 4) 研究代表者、共同研究分担者、研究協力者、招へい者によるもの

日程(月日)	日数(日)	活動内容	場所	研究代表者、共同研究分担者、研究協力者、招へい者の参加者名・部署	参加者数(人)
2020.07.15	1	委員会	WEB	伊東弘人、山口直彦、糸川雄介、田中雅人、Juha Saunavaara、大塚夏彦、大西富士夫、矢吹祐伯	8 人

②研究論文

研究代表者並びに、研究分担者あるいは研究協力者が著者の関連論文がありましたら可能な限り記載ください。

論文が複数ある場合は、そのフォーマットとして論文 1 の分をコピーして記載してください。

論文 1

項目	記入要項	回答
----	------	----

(1)著者名(共著者名含む)、 発行年、論文タイトル、掲載 誌名、巻・号、ページ数、 DOI、出版年月日	
---	--

③研究書等著書

著書名・著者名	出版年月	出版社名
Stefan Kirchner, Juha Saunavaara, Tanaka Masato, Otsuka Natsuhiko, Timo Koivurova & Pirjo Kleemola-Juntunen, Port State Responses to COVID-19 on Cruise Ship between Human rights and the Law of the Sea. Governing the Crisis: Law, Human Rights and COVID-19, LIT Verlag, 2021. ISBN will be 978-3-643-91351-7	2021年2月 予定	LIT Verlag

④特許等出願

特許、実用新案、商標	
特になし	

⑤研究発表(資料添付も可)

発表年月日	発表者名(共著者を含む)	発表タイトル	発表学会等名称	発表地	招待講演 (○)
特になし					

⑥国際シンポジウム等への参加状況(資料添付も可)

参加をした主な国際シンポジウム等		
開催時期(年月)	国際シンポジウム等名称	招待講演/議長の有無
特になし		

⑦本共同研究に関し実施(主催、共催、後援等)したシンポジウム・集会(注6)等(資料添付も可)

(注6) 研究代表者、共同研究分担者、研究協力者、招へい者以外を含む参加募集によるもの

開催日	実施地 (国、県、市など)	形態 (注7)	シンポジウム・集会等名称	目的及び概要	対象者 (注7)	参加人数 (海外(注8))

特になし						

(注7)

形態:シンポジウム、セミナー、公開講座、ワークショップ、その他

対象:一般、地域、学生、研究者

(注8) 海外機関に所属するもの

⑧本拠点共同研究に係る成果が科学研究費などの外部資金の応募(予定を含む)やプロジェクトに発展した例があればご記入ください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト名</li> <li>・代表者・関係者(所属)</li> <li>・関係研究者</li> <li>・予定の場合は、(予定)と記載してください</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトの主な財源</li> <li>・金額</li> </ul>	プロジェクト期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト概要(目的・期待効果、規模、参加国等)</li> <li>・これまでの本共同研究との関連性(300字程度)</li> </ul>
特になし			

⑨研究成果が一般社会産業界などに還元(応用)された事例や新しい研究分野の開拓や教育活動に反映された事例(資料添付も可)

特になし

⑩その他国際研究協力活動事例

事業名	概要	受入人数	派遣人数
特になし			

⑪学会賞等受賞、アウトリーチ、取材、その他

年月日	所在・出典・新聞名等	受賞者・関係者(所属)	研究課題名・賞名・内容等
特になし			

記事コピー等を添付してください。

⑫コロナ禍の影響と対策

本共同研究へのコロナ禍の影響と対策(改善・代替策、計画変更、工夫等)、助成金執行率(%)について記述してください。

影響の事象	対策の有無と内容 (計画変更・中止、改善・代替策、工夫等)
<p>主要クルーズ船社のキーパーソンとの意見交換会を計画していたが、コロナの影響によって、世界のクルーズ船が2020年3月から停止しており、事業の継続が困難な状況にあるクルーズ船社に対して、研究会への参加を依頼できる状況ではないため、国内メンバーのみでWEBにて開催した。2020年度に開催した研究会において、クルーズ船を運航する海外船社からは、2022年夏期に北極海域へ配船されるエクスペディションのクルーズ船(新造船を含む)が急増する見通しがある、との明るい兆しに関する情報提供があった。</p>	<p>コロナ禍の中で対応できることには限界があるが、今年度の研究会において、海外船社から発言のあった今後の北極クルーズ市場が発展する見通しに基づけば、先行的かつ継続的に研究活動を続けることは意義があると考えます。</p> <p>よって、2021年度の本研究会においては、引き続き北極クルーズについてのビジネス機会を探究する研究を進めていくとともに、その周辺分野の学術的な研究の促進も含んだ計画として申請したいと考える。</p>
<p>北極クルーズの拠点・ノルウェーで現地調査を予定していたが、上記のようにクルーズ産業が停止している状況に加え、国際フライトも休止して現地へ行くことができなかつたため中止した。</p>	<p>国際フライトが再開次第、計画を進めるものとする。</p>
<p>北方圏国際シンポジウム等でのディスカッションを予定していたが、コロナによる影響で中止になった。</p>	<p>北方圏国際シンポジウム等の開催に合わせて、計画を進めるものとする。</p>